

「譲渡会と保護猫、保護犬について」

2年次 1組 12号 氏名 才守 沙和

1. テーマ設定の理由

譲渡会や保護犬、保護猫について言葉は知っていたが詳しく知らなかったので調べてみたいと思ったから。また、譲渡会や保護犬、保護猫のことを知っている人が増えてほしいから。動物が好きなので将来は動物に関わっていきたくて考えており、将来に繋がると思ったからこのテーマにした。

2. 探究活動の概要(abstraction)

まずはインターネットの情報から譲渡会、保護動物、殺処分の現状について調査する。また、八代市の図書館で関連書籍からも情報を集める。その上で実際に譲渡会をされている方へのインタビューや、譲渡会でのボランティア体験をしてみる。実際に譲渡会を開催するためにはどうすることが必要かを検討し、可能であれば実際にやってみる。

3. 調査内容

ア) 譲渡会、保護犬、保護猫の言葉の意味

「譲渡」
動物愛護センターやボランティア団体が保護している動物を引き取るということ

「譲渡会」
行政機関や民間団体などで保護された動物たちを里親希望の方へ送り出すこと

「保護犬・保護猫」
保護猫、保護犬とはお家に飼い主がいらない、もしくは犬猫たちがレスキューされて、自治会や民間の動物保護施設、個人宅などで一時的に保護されて生活している犬猫たち

イ) 保護犬・保護猫との出会い方
保護団体／愛護センター／動物病院／保健所／保護犬・保護猫カフェなど

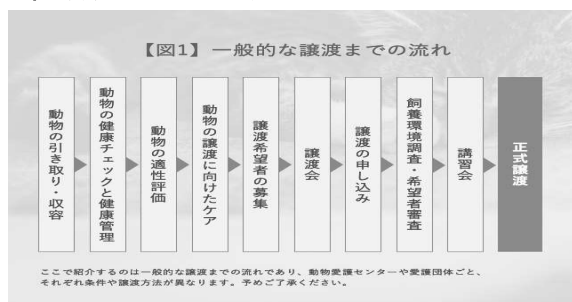
ウ) 譲渡条件 (一部)

- ・ペットが飼える住宅環境 (または探せる)
- ・適正に飼養できるスペースが確保されている
- ・一定の収入やペットを飼うための費用がある
- ・動物を飼うことを家族全員が賛成している。
- ・動物に対するアレルギー等を持つ家族はいない
- ・昼間、家族全員が留守になる時間は長くない
- ・何かあったときでも対応できます。

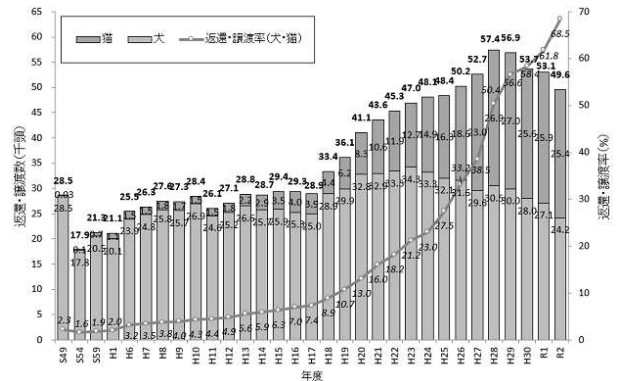
(単身者や高齢者だけのご家族の場合)

- ・世話を頼める後見人をたてることできる
- ・愛情と責任を持ち、病気やけがをしても治療し、終生飼養できる など

工) 譲渡の大まかな流れ



オ) 全国の犬猫の返還・譲渡の推移



全国的にも殺処分件数が減っており、譲渡や返還の割合が増加傾向にある。しかし殺処分数は現在は猫が犬の5倍というデータがある。その背景には、動物愛護法の改正と行政と民間団体の協力がある。

カ) 「八代ニャンズ助け隊」さんへのインタビュー
もし捨て猫、捨て犬を見つけ、動物病院や保護団体などの対応に時間がかかる場合は、自分ができることをする。例えば、タオルで体を冷やさないよう温めるとか、安全な場所に移す。「地域猫」とは飼い主がいらない猫のうち、地域住民がその地域で餌の管理糞尿の処理をして、去勢避妊手術が施されている猫のこと。「さくら猫」とは地域猫のうち去勢・避妊が施された後処置されていない猫と区別するために片耳の端がカットされている猫のこと。

キ) 「TNR活動」
T・・・trap (トラップ) 捕獲すること
N・・・neuter(ニューター)不妊手術をすること
R・・・return (リターン) 猫を元の場所に戻す
望まれない出産をなくし、殺処分を減らすのに有効な手段。猫は室内飼いが基本である。

ク) ジョートフル熊本さんへのボランティア参加
初めて譲渡会を訪れた。犬と猫と物販の担当があり、私は猫の担当をした。猫の譲渡会は室内で行われ、入場制限があった。準備や片づけが少し大変だったが動物たちが可愛かった。保護団体の方もたくさん参加されていた。

5. 探究活動を通しての気づきと学び
譲渡は条件が厳しいと思う人がいると思うが、譲渡会で引き取る場合、①トライアル期間(保護猫保護犬との相性を見るために一緒に暮らしてみる期間)があること②命を救えること③健康状態を把握した上で迎えること④ペットショップやブリーダーから手に入れるほど高額な費用はかからない、など多くのメリットがあることを知った。

6. 今後取り組みたいこと(次の課題)
実際に譲渡会を開く。動物を飼いたい人や譲渡会に興味がある人だけでなく興味のない人にも「譲渡会」を知ってもらう工夫をしていきたい。